

令和 4 年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立築港中学校

令和 5 年 2 月

0214

大阪市立築港中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

生徒一人一人が自らが考え、判断して行動できる「自立力」と基本的な生活習慣を確立し、規律ある学校生活が過ごせる「自律力」を身につけさせる教育実践を推進している。

本校では、「分かる喜び、できる楽しさを実感できる授業」をめざし、ICT機器の効果的な活用を図るとともに、授業改善に取り組んでいる。「みんなの学習クラブ」を活用し、一斉画一的な授業から脱却し、生徒が自学自習できる力の育成を進めている。わずかずつではあるが着実に学力が向上してきている。

教員は一人一人の生徒の意見を徹底して認めるようにしている。それによって人の話を真摯に聞く力も高まってきている。授業のなかでプレゼンテーションの機会も設けて、表現のスキルを高めたり、プレゼンテーションの力を育てる工夫もしている。また、生徒一人一人が自分の考えをまとめ、発表する機会がふえることによって、言語活動の充実や表現能力の育成を図っている。

(5) 令和3年度に実施した各学力検査等の結果を掲載する。

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
実施月日			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	34	62	57	2.1	8.6
	大阪市	—	61	55	5.1	12.3
5月27日	全国	—	64.6	57.2	4.4	11.2

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	33	64.5	40.8	41.5	41.2	53.7	7.4	6.5	10.1	2.9	2.3
	大阪市	—	65.6	47.5	46.9	42.6	52.9	7.3	5.8	10.7	4.1	3.1
9月2日	大阪府	—	65.8	48.2	48.1	43.0	53.2	7.6	5.8	11.2	4.5	3.4
2 年	学校	16	51.9	41.3	45.8	42.1	52.1	8.3	6.4	9.4	3.8	4.1
	大阪市	—	57.5	51.2	59.0	53.8	57.8	12.1	6.4	9.4	5.5	5.5
1月13日	大阪府	—	58.8	52.2	60.1	53.1	58.5	11.9	6.4	9.4	6.3	5.6
1 年	学校	18	65.1	66.1	57.6	71.3	66.9	6.3	1.1	3.3	1.4	1.5
	大阪市	—	60.8	56.2	57.2	60.7	62.6	9.7	3.0	6.0	3.8	4.6
1月13日	大阪府	—	62.2	—	58.5	—	63.5	9.7	—	6.2	—	4.7

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
実施月日			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	34	107.4	110.0	154.2	100.0
10月18日	大阪市	—	100.9	108.0	140.3	93.0

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 1500m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	17	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	27.57	22.86	43.29	50.57	85.43		7.94	192.43	19.14	39.43
	大阪市	28.90	26.27	42.12	51.88	78.32	416.03	8.08	195.40	20.03	40.71
	全 国	28.80	25.99	43.67	51.19	79.88	406.38	8.01	196.36	20.31	41.18
2 年 女 子	学校	22.70	19.00	38.20	44.60	50.50		9.22	159.70	13.40	43.30
	大阪市	23.42	22.44	44.71	46.94	53.61	306.26	9.01	167.76	12.62	48.06
	全 国	23.43	22.32	46.20	46.25	54.24	297.62	8.88	168.15	12.72	48.56

本校では、基礎的・基本的な内容の確実な定着と「分かる喜び、できる楽しみを実感できる授業」をめざした、授業の工夫・改善に取り組みを進めている。具体的には生徒一人一人の理解度に対応した授業やＩＣＴ機器を活用した授業方法などの授業研究にも積極的に取り組んでいる。

これからの教育が課題研究やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど、生徒の能動的な学習を取り込んだ授業を推進することで、自ら課題を見つけ、それを解決する能動的な学びに向かうことで、自立的な学習態度を身につける「生きる力」を育む教育へと取り組みを展開する。

また、本校の生徒の特徴としては授業や各行事、部活動等の活動の場面において、見本や例を求め、型どおりにこなすことが最優先となって、自分で何かを生み出す力や自らの考えを表現する力、学びをつなげていく習慣が身につけていない。

そこで、「授業デザインを探究」し、「思考の可視化」を図り、「学びの協働」を推進するという３つの視点を通じて、「教科の学び」(内容)と「学び方の学び」(方法)をもたらす２層構造型の授業実践を行う。まなボードや実物投影機は、「課題⇒予測⇒まとめ⇒振り返り」のサイクルをもった授業実践を推進し、教員も生徒も考えを伝えるための手軽なツールとして利用することができ、小グループや学級の協働を促進し活性化することができる。実践を通じて、「自ら学び、自ら鍛え、みんなと生きる生徒」の育成をめざす。

中期目標

(1)【安全・安心な教育の推進】

- ・令和４年度～令和７年度末にかけて、全国学力・学習状況調査や校内調査等において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 82%以上にする。
- ・令和４年度～令和７年度末にかけて、全国学力・学習状況調査や校内調査等において、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。
- ・令和４年度～令和７年度末にかけて、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年 95%以上にする。
- ・令和４年度～令和７年度末にかけて、全国学力・学習状況調査等において、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 95%以上にする。
- ・令和４年度～令和７年度末にかけて、校内調査における「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多いですか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を毎年 70%以上にする。
- ・令和４年度～令和７年度末にかけて、全国学力・学習状況調査等において、「自分には、よいところがありますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 77%以上にする。
- ・令和４年度～令和７年度末にかけて、校内調査における「本を読む機会が増えた」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より向上させる。

中期目標

(2)【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、全国学力・学習状況調査において、平均正答率の対全国比を1.00以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を56%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、体力合計点の対全国比を1.01以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、校内アンケートで「授業が分かりやすく楽しい」と答える生徒の割合を55%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、校内アンケートで「先生はICT機器などを使って、授業内容や方法を工夫している」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、校内アンケートで「授業でわからないところについて、先生に質問している」と答える生徒の割合を60%以上にする。

(3)【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、授業日において学習者用端末を毎日使用する。(ただし、学校行事等ICT活用が適さない日を除く。)
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、デジタル教材を活用した朝学習を、週1回実施する。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を、基準1では50%以上、基準2では75%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、ゆとりの日を週に1回設定・実施する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

(1)【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ①年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を86%以上にする。
- ②年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
 - ※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握
 - ※ 改善とは、次の状態の場合をいう。
(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)
 - 1 出席日数の増(学校内外でICT等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む)
 - 2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
 - 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

学校の年度目標

- ①年度末の校内調査において「学校へ行くのが楽しい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ②年度末の校内調査において「時間を守り、遅刻をしない」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ③年度末の校内調査において「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ④年度末の校内調査において「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ⑤年度末の校内調査において、「規則正しい生活を心がけている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ⑥年度末の校内調査において、「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ⑦年度末の校内調査において「先生はいじめや校内暴力などのない学校づくりに取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を80%以上にする。
- ⑧年度末の校内調査において「子どもは友だちを大切にし、人への思いやりを持っている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。

(2)【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ①年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 25%以上にする。
- ②中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- ③大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 50%以上にする。
- ④年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。

学校園の年度目標

- ①年度末の校内調査において、「授業が分かりやすく楽しい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
- ②年度末の校内調査において、「先生は授業内容・方法を工夫している」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ③年度末の校内調査において、「授業でわからないところについて先生に質問しやすい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
- ④年度末の校内調査において、「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ⑤年度末の校内調査において、「本を読む機会が増えた」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
- ⑥年度末の校内調査において、「自分の頑張ったところを認めてくれる先生が多い」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

(3)【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ①デジタル教材を活用した朝学習を週 1 回実施する。
- ②ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。

学校園の年度目標

- ①授業日において学習者用端末を毎日使用する。（ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日を除く。）
- ②教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を、基準 1 では 50%以上、基準 2 では 75%以上にする。

(4)【その他】

- ①年度末の校内調査において、「あいさつをしている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ②年度末の校内調査において、「清掃活動に取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ③年度末の校内調査において、「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ④年度末の校内調査において、「学校のホームページをよく見る」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を50%以上にする。
- ⑤年度末の校内調査において、「朝食を毎日食べていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ⑥年度末の校内調査において、「手洗い・手指消毒をしっかりと、健康に気をつけている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

(1)【安全・安心な教育の推進】

おおむね、目標は達成できた。

不登校生の対応について、家庭訪問・別室登校・オンライン授業を継続するとともに、関係諸機関とも連携して生徒本人の改善を促す。

(2)【未来を切り拓く学力・体力の向上】

おおむね、目標は達成できた。

AIDリルの継続的取り組みや、検定受験の継続により、学力向上を目指す。

(3)【学びを支える教育環境の充実】

おおむね、目標は達成できた。

読書習慣を身に着けるため、抜本的な見直しと新たな取り組みの実施を行う。

(様式2)

大阪市立築港中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標				達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】				
全市共通目標(中学校)				
①年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 86%以上にする。				
②年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。				
③年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。				
	目 標	結 果	達成状況	
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合	86%	90.0%	A	
不登校生徒の在籍比率	前年度より減少	増加	C	
前年度不登校生徒の改善の割合	増加	現状維持	B	
【生活指導部】				
達成状況 A B C				
いじめ事案に対しては、必ずいじめ対策委員会を開き、教職員全体で対応してきた。不登校生については、昨年度から不登校の生徒については登校日数とオンラインでの参加時数を増やすことができた。				
次年度に向けての取り組み				
いじめについては SNS を介しての事案もあるので、SNS の使い方についての指導も強化していくことでいじめ事案を減らしていきたい。				
不登校生については引き続き、その生徒に応じた対応を丁寧に続けていく。				
学校の年度目標				
①年度末の校内調査において「学校へ行くのが楽しい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。				
②年度末の校内調査において「時間を守り、遅刻をしない」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。				
③年度末の校内調査において「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。				
④年度末の校内調査において「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。				
⑤年度末の校内調査において、「規則正しい生活を心がけている」の項目について、肯				

<p>【健康教育部】</p> <p>達成状況 A (B) C</p> <p>保健委員会が中心となり、睡眠時間の確保に努めようと働きかけるも、「規則正しい生活を心がけている」に肯定的に回答する生徒の割合が目標の数値を上回らなかった。スマホやゲーム機に依存する生徒が多く、引き続き睡眠の必要性などを呼びかけ、保健だよりなどの発行も利用し、家庭にも働きかける必要がある。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>睡眠や食事など、生活習慣の見直しをする取り組みを引き続き行っていく。</p>	
--	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>相談活動を充実させ、生徒の変化等に気づき未然防止に努める。いじめや暴力行為のない学校づくりをめざす。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間2回以上カウンセリング活動を実施する。また、毎週金曜日に「一週間の振り返り」を実施し、いじめや不登校等の未然防止、早期発見・早期指導に努める。 ・様々なアンケート調査を実施し、生徒理解に努める。 <p>【生活指導部】</p> <p>達成状況 A (B) C</p> <p>『心の天気』機能を使ってほぼ毎日、朝学活・終学活時に生徒の心の状態についてのアンケートを行い、気持ちの変化をとらえるようにしてきた。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>今年度同様アンケートを定期的実施し、いじめの未然防止に努める。また、いじめが発生したときは速やかに『いじめ対策委員会』を開き、対応策を協議する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>時間を守る習慣を身につけさせる。予鈴までに登校させ、遅刻者数を前年度より減少させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において「時間を守り、遅刻をしない」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 <p>【生活指導部】</p> <p>達成状況 (A) B C</p> <p>生徒アンケートにおいて、「時間を守り、遅刻をしない」に肯定的に回答する生徒の割合が100%に達した。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>今年度同様の結果が残せるように、登校指導等において声掛けをしていく。</p>	A

取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

心の葛藤を通して、より良い生き方を求める態度を養う。

指標

- ・「道徳」の授業力向上をめざし、大阪市立中学校教育研究会の道徳部から出ている「道徳の授業をするにあたって」の資料を周知し、実践する。

【道德教育委員会】

達成狀況

A

B

C

それぞれの教員が工夫を凝らして授業を行っていた。

次年度に向けての取り組み

大阪市の道徳教育では「ペアワーク」を導入するようにとあるため、「ペアワーク」や「グループワーク」などを取り入れた授業展開を実践していきたい。

【1 年】

達成状況

A

B

C

学年の教員でローテーションを組み、計画的に授業を行うことができた。

次年度に向けての取り組み

今後も各題材で担当を決め授業を実施していくとともに、指導の内容を共有しながら、道徳の授業の質の向上を図る。

【2 年】

達成狀況

Ⓐ

H

C

学年の教員でローテーションを組み、計画的に授業を行うことができた。

次年度に向けての取り組み

今後も継続して、ローテーションで授業を実施していくとともに、指導の内容を授業参観等で共有しながら、道徳の授業の質の向上を図る。

【3 年】

達成状況

A

B

C

学年の教員でローテーションを組み、計画的に授業を行うことができた。

次年度に向けての取り組み

今後も継続してローテーションで授業を実施していくとともに、指導の内容を授業参観で共有しながら、道徳の授業の質の向上を図る。

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

アイマスクや車いす体験などの疑似的な体験を通して、障がいや障がいのある人を正しく理解し必要な配慮を考え、誰もがお互いに人格と個性を尊重し、共に支え合う「共生社会」を実現する資質を育成する。

指標

- ・年度末の校内調査において「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしているの項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。

・年度末の校内調査において「子どもは友だちを大切にし、人への思いやりを持っている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。

【共生教育委員会・特別支援教育委員会】

達成状況

①

B

C

日々の学校生活や行事，学年での取り組み及び各教科・領域において、友だちの気持ちを考えたり大切にすることの大切さを学習している。また、1年生では福祉教育として車いす体験を実施することができた。2年生も、認知症講話を実施できた。年度末の行内調査において、生徒アンケートでは93.4%、保護者アンケートでも91.6%という成果を出し指標を達成することができた。

次年度に向けての取り組み

今年度同様に、生徒アンケートや保護者アンケート項目の「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている」を90%以上にできるようにしていきたい。そのために、福祉体験だけではなく、日々の学校生活や行事，学年での取り組み及び各教科・領域での横断的な指導を継続していきたい。

【1 年】

達成状況

①

B

C

A

車いす体験と車いすバスケット体験を実施し、車いす生活の目線や困難さなどを考え、相手を思いやり尊重することの大切さを学んでいる。2月にはアイマスク体験を実施する予定である。また、道徳や各教科の授業・学活や総合などで人権や共生について学んでいる。

次年度に向けての取り組み

認知症への正しい知識や理解についての学習や障がい者理解に関する映画を見て理解を深めたい。また福祉体験だけではなく、日々の学校生活や行事，学年での取り組み及び各教科・領域での横断的な指導を継続していきたい。

【2 年】

達成状況

①

B

C

認知症講話を実施し、日々の生活の中で少しでも自分ができることを考えて実行に移していくことの大切さ、相手を思いやり協調や尊重することの大切さを学ぶことができた。2月にはアイマスク体験を実施する予定である。また、道徳や各教科の授業・学活や総合などで人権や共生について学んでいる。

次年度に向けての取り組み

障がい者理解に関する映画を鑑賞させて理解を深めたり、車いす体験を実施していきたい。また福祉体験だけではなく、日々の学校生活や行事，学年での取り組み及び各教科・領域での横断的な指導を継続していきたい。

<p>【3 年】</p> <p>達成状況 A (B) C</p> <p>道徳や各教科の授業・学活や総合などで人権や共生について学んでいる。文化祭では、手話を取り入れた合唱コンクールを披露した。福祉に関する体験や授業を個別に設定することができなかった。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>今年度は、福祉に関する体験や授業を個別に設定することができなかったので次年度は早い段階で計画を立てて取り組みができるように進めていきたい。また福祉体験だけではなく、日々の学校生活や行事，学年での取り組み及び各教科・領域での横断的な指導を継続していきたい。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>職業講話等の体験学習を通して、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・様々な体験した事の発表を聞くことによって、疑似的な体験を積みせ、勤労観・職業観を育成する。</p> <p>(1年 職業講話、2年 高校出前授業、3年 体験入学 など。)</p> <p>【キャリア教育委員会】</p> <p>達成状況 (A) B C</p> <p>昨年度より充実した取り組みができた。外部講師を招き幅広くキャリアを学ぶことができた。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>実際に現場に出てキャリアを積むためにも、職場体験再開を考えたい。</p> <p>【1 年】</p> <p>達成状況 (A) B C</p> <p>「働くということ」というテーマで仕事やお金、社会の仕組みについて学び、「自分の性格や適性を知る」ために、性格診断テストを行って、適した仕事を見つける取り組みをした。中学卒業後の進路にも含めて、自分の将来について考える機会とした。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>2年生では、出前授業のSPトランプを実施し、自分の進路についてより深く考えさせていく予定である。</p> <p>【2 年】</p> <p>達成状況 A (B) C</p> <p>高校出前授業・SPトランプを実施し自らの進路・将来について考えることができる機会を設けてきた。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>1、2年生でおこなってきた取り組みを進路指導に活かしていく。</p>	A

<p>【3 年】</p> <p>達成状況 A B C</p> <p>7月に高校出前授業を実施し、進路に向けて深く考えるきっかけにすることができた。進路懇談や総合の時間を通して、生徒それぞれに合った進路選択を模索してきた。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>卒業後も、それぞれの進路先での生活を見守ってあげたい。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>性教育を学ぶことによって、互いに異性についての正しい理解を深めるとは、互いに相手のよさを認め合い、互いに独立した一個の人格としてその尊厳を重んじ、人間としての成長と幸せを願う態度を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 ・年度末の校内調査において、「性の学習（性教育）について学ぶ機会がある」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 <p>【共生教育委員会】</p> <p>達成状況 A B C</p> <p>年度末の校内調査において「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」「性の学習（性教育）について学ぶ機会がある」の項目で目標を大きく上回っている。それぞれの学年において必要であるとされる性教育を実施し、グループワークや外部講師の講義により有意義なものが実施できた。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>各学年の実情に合わせた性教育を今後も実施し、内容なども再考する。今後も性教育を通して、人権や自分の体について、対人関係なども指導していく。</p> <p>【1 年】</p> <p>達成状況 A B C</p> <p>「生命誕生」をテーマにした講話を養護教諭に行ってもらい、命の大切さを描いたDVDを視聴したり、「妊婦体験」や赤ちゃん人形を使った「育児体験」などの体験学習を実施した。体験活動を通して、より深い学びを得ることができた。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>2年生では、「デートDV」についての授業を予定しており、適切な人間関係を築くために大切なことを学ばせる。</p>	A

<p>【2 年】</p> <p>達成状況 A <input checked="" type="checkbox"/> B C</p> <p>2月に『デートDV』についての講義をしてもらう予定。 相手との適切なかかわり方について指導していく。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>妊娠と避妊、性感染症について学習していく。</p> <p>【3 年】</p> <p>達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> A B C</p> <p>7月に大阪府助産師会の方を招いて『ティーンズヘルスセミナー』を実施した。変化する体と心、SNSの危険、妊娠と避妊、性感染症について深く学ぶことができた。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>卒業後も、それぞれの進路先での生活を見守ってあげたい。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>おおむね、目標は達成できた。学校選択制により、他校への入学者が増え、全校生徒数が減少し、不登校生の在籍比率については、増加してしまった。各学年1クラスしかない状況でも、あまり気があわない生徒もいるようで座席を離すことしかできない難しさがある。不登校生に対しては、家庭訪問・別室登校・オンライン授業などの対応をしている成果により、調理実習や校外学習に参加できる生徒も出てきた。</p>	
次年度への改善点	
<p>不登校生に、進路も見すえて考えさせていく中で、その生徒に応じた対応を丁寧に行っていく。さらに、関係諸機関とも連携をして改善を目指していく。</p>	

大阪市立築港中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標		達成状況	
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】			
全市共通目標(中学校)			
①年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 25%以上にする。			
②中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。			
③大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 50%以上にする。			
④年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。			
	目標	結 果	
「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合	25. 0	35. 0	
		達 成 状 況	
		A	
【 3 年 生 中学校チャレンジテスト(大阪府):対府比】			
	1 年時 (R2)	2 年時 (R3)	3 年時 (R4)
国語	0. 80	0. 88	0. 82
数学	0. 79	0. 76	0. 81
(対府比)=(学校の平均点)÷(大阪府の平均点)			
【 2 年 生 中学校チャレンジテスト(大阪府):対府比】			
	1 年時 (R3)	2 年時 (R4)	
国語	1. 05		
数学	0. 98		
(対府比)=(学校の平均点)÷(大阪府の平均点)			
【 1 年 生 中学校チャレンジテスト(大阪府):対府比】			
	1 年時 (R4)		
国語			
数学			
(対府比)=(学校の平均点)÷(大阪府の平均点)			

	目標	結果	達成 状況
大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合	50%	31.3%	C
「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合	50%	50%	B

【国語科】
達成状況

A

B

C

教材のテーマについてグループワークなどを行い、考える授業の展開を行った。3年生のチャレンジテストの結果については、昨年度よりもポイントを下げたが、「伝統的な言語文化」の領域においては平均を上回った。しかし、力を入れていた「書くこと」については下回ってしまったため、反省点が残る。

次年度に向けての取り組み

「書くこと」については力が弱いところもあり、語彙能力を鍛え、修正していく必要がある。

【社会科】
達成状況

A

B

C

授業の進度に応じてグループ学習を行い、話し合い活動やクロームブックを用いての授業を行うことで考えを深めることができた。しかし、グループ学習を行うことができる頻度はまだまだ少なく、グループワークを行うまでの基礎学力の定着もまだまだ足りていないという反省点が残った。

次年度に向けての取り組み

グループ学習をさらに深めるために基礎学力の定着に力を入れる。

【数学科】
達成状況

A

B

C

3年生のチャレンジテストにおいて、3年間で一番よい成績を残すことができた。グループでの学習も後期はしっかりと取り組んだので、話し合い活動を通しての、さらなる学力向上に期待したい。

次年度に向けての取り組み

今年度の後期での取り組みを、もっと早い時期から実施していきたい。

【理 科】
達成状況

A

B

C

グループで話し合う活動を行い、考えを深められる場面があった。しかし、その頻度が少なかったり、学年によって差が生じたりしており、十分なものではなかった。

次年度に向けての取り組み

グループ活動の機会を増やし、少なくとも週に一回以上行うようにする

【英語科】**達成状況**

A

B

C

教科書の内容に応じて、グループワークを計画的に行うことができた。3年生のCEFR達成状況は芳しくなかったが、習熟度別授業等を行い学力の底上げを計画している。

次年度に向けての取り組み

補充の時間等を活用し、英語力向上をめざす。

【1 年】**達成状況**

A

B

C

日々の班活動を基本に、自分の意見を周りに伝えたり、周りの意見を聞いて協力したり、支えあう姿勢がみられるようになった。チャレンジテストについては、欠席者が多く、受験者が少なかったことでの影響が懸念される。

次年度に向けての取り組み

行事を通して、学年だけでなく他学年との話し合いの中で、意見を伝えたりまとめたりする役割を担えるようにしていきたい。

【2 年】**達成状況**

A

B

C

校外学習等を通じてお互いの意見を交換し合う機会が増えた。

次年度に向けての取り組み

修学旅行に向けて、さまざまな取り組みを行いたい。

【3 年】**達成状況****A**

B

C

受験生であることをしっかりと意識させ、総合でも自習の時間を多く取り入れることによって、自学自習の姿勢が身についてきた。

次年度に向けての取り組み

卒業後も、それぞれの進路先での生活を見守ってあげたい。

【保健体育科】**達成状況**

A

B

C

昼休みに校庭を開放してきた。今年度は使用できるボールにソフトバレーボールを加えて、より多くの生徒が昼休みのボール遊びに参加しやすくなった。

次年度に向けての取り組み

引き続き校庭を開放するとともに、時期によっては体育館などの開放も検討していく。

学校の年度目標

- ①年度末の校内調査において、「授業が分かりやすく楽しい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
- ②年度末の校内調査において、「先生は授業内容・方法を工夫している」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。

③年度末の校内調査において、「授業でわからないところについて先生に質問しやすい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 ④年度末の校内調査において、「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 ⑤年度末の校内調査において、「本を読む機会が増えた」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 ⑥年度末の校内調査において、「自分の頑張ったところを認めてくれる先生が多い」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。				
	目標	7月	12月	達成状況
「授業が分かりやすく楽しい」に肯定的に回答する生徒の割合	70%	97.6	93.3	A
「先生は授業内容・方法を工夫している」に肯定的に回答する生徒の割合	90%	97.7	93.4	A
「授業でわからないところについて先生に質問しやすい」に肯定的に回答する生徒の割合	70%	95.3	88.9	A
「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある」に肯定的に回答する生徒の割合	80%	95.4	93.3	A
「本を読む機会が増えた」に肯定的に回答する生徒の割合	70%	69.8	64.4	C
「自分の頑張ったところを認めてくれる先生が多い」に肯定的に回答する生徒の割合	80%	100.0	93.3	A
「手洗い・手指消毒をしっかりし、健康に気をつけている」に肯定的に回答する生徒の割合	90%	97.7	95.5	A
		市平均	本校平均	
体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を大阪市平均より上回る	男子	40.80	35.00	C
	女子	47.00	50.75	A
	目標	合格率		
1年漢字検定の合格率	50%	67%		A
3年漢字検定の合格率	50%	28%		C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 デジタル学習教材を活用するなど、自学自習を中心とした自主的な学習活動の支援や学習機会を提供する。	
指標 ・年度末の校内調査において、「自分の頑張ったところを認めてくれる先生が多い」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 ・年度末の校内調査において、「授業でわからないところについて先生に質問しやすい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。	

【国語科】**達成状況**

A

B

C

小テストなど日々の小さなテストから、やり直しを課している。また、授業の振り返りプリントを利用し、その日の理解したこと、わからないことについて確認し、次の授業内でフィードバックするようにしている。

次年度に向けての取り組み

継続して振り返りプリントの取り組みを行うとともに、デジタルドリルの活用方法を考えていきたい。

【社会科】**達成状況**

A

B

C

自主学習としてみんなの学習クラブやnavimaなどを推奨している。それらの学習に応じて評価を行っている。また、授業時には生徒がその都度様々な質問をしたり、授業プリントのまとめ欄を用いて質問をする生徒もいるため、わからないところを質問しやすい環境になってきていると感じている。

次年度に向けての取り組み

引き続き継続して行っていきたい。

【数学科】**達成状況****A**

B

C

習熟度別少人数授業を多く実施したので、分からないところを質問しやすい環境をつくることができた。

次年度に向けての取り組み

今年度に引き続き、習熟度別少人数授業を多く実施していく。

【理 科】**達成状況**

A

B

C

テスト期間等に自学自習を取り入れたことで、自主的に学習に取り組んだ生徒も多かった。一方で、質問を受ける機会が少なく生徒が苦手としている点を把握することが不十分であった。

次年度に向けての取り組み

単元ごとの振り返りや ICT を利用して生徒の苦手を把握する機会を設け、質問しやすい場面をつくる。

【英語科】**達成状況**

A

B

C

複数学年において、標準授業数（週 4 時間）以上の授業（週 5 時間）を行い、英語の学力向上に努めた。

次年度に向けての取り組み

次年度も今年度同様の取り組みを考えている。

B

取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

課題研究やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど、生徒の能動的な学習を取り入れた授業を推進する。

指標

- ・年度末の校内調査において、「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。

【国語科】

達成状況

A

B

C

クロームブックを利用し、教材テーマに沿った題材で個人でのプレゼンテーションの作成や共同編集機能を用いてグループでのプレゼンテーション作成を行い、発表させた。

次年度に向けての取り組み

今年度同様に次年度も一人一台端末を使用した、思考力、表現力を養える授業を展開していきたい。

【社会科】

達成状況

A

B

C

クロームブックを用いて日本の諸地域をPRするという内容のグループ学習を行った。ただ、チャレンジテスト範囲を履修するのに手一杯なこともあり、頻繁に行えないのが実情である。3学期には2年生を対象に、築港地域を巡るフィールドワークを行う予定である。

次年度に向けての取り組み

普段の授業でも生徒の騒動的な活動ができるように少しずつ工夫していきたい。

【数学科】

達成状況

A

B

C

円周角・三平方の定理の単元では、すべての時間をグループで学習した。ICTも同時に活用したので、生徒の意欲も向上したように思う。

次年度に向けての取り組み

今年度の後期での取り組みを、もっと早い時期から実施していきたい。

【理 科】

達成状況

A

B

C

Googleスライドを用いて調べた内容や考えた内容を発表する取り組みを行い、主体的、対話的で深い学びを実践することができた。しかし、学期に一回程度しか実施できていないため、不十分であると判断した。

次年度に向けての取り組み

プレゼンテーションの機会を増やすことや、実験の考察をグループで行うことなどに取り組み、生徒の能動的な学習を推進する。

B

【英語科】**達成状況****A****B****C**

教科書の内容に沿ってプレゼンテーションを、各学年の英語能力に合わせて行った。またICTを活用して行った学年もあった。

次年度に向けての取り組み

次年度も同様に計画している。

【音楽科】**達成状況****A****B****C**

「音楽の授業を受ける時に、前向きな姿勢で受けることができましたか。」という項目の肯定的な回答が90%を超え、92.6%だった。

次年度に向けての取り組み

極小の中で、どのように音楽教育活動をするのか。

【美術科】**達成状況****A****B****C**

1年生のモダンテクニックを使ったイメージ表現では、グループワークを取り入れ、アイデアを練る過程で、より多様なイメージを広げ、製作に反映させる授業をおこなった。2, 3年生では、授業数の関係もあり、実施できなかったもので不十分だと判断した。

次年度に向けての取り組み

授業数の少ない2, 3年生でも、グループワークや、鑑賞活動でのディスカッションを行って、生徒の主体的な学びを推進していく。

【保健体育科】**達成状況****A****B****C**

陸上競技・柔道・器械運動などの身体操作に重きを置く種目時は、特に動画撮影し、ペア・グループでの意見交換ができるようにしている。

次年度に向けての取り組み

引き続き、より多くの種目で生徒たちが意見交換できる取り組みを取り入れていく。

【技術科】**達成状況****A****B****C**

1年生は少人数グループで協力しながら木工実習に取り組んでいる。2年生はエネルギー問題についてのグループワークなど能動的学習を行った。3年生は栽培記録を写真で撮りスライドを作成した。提出が難しい生徒もあり、授業数が少ないことをGoogleClassroomで補おうとしたがサポートが十分にはできなかった。

次年度に向けての取り組み

引き続き、情報機器を活用しながら「安全」と「技術のものの見方」を核に、生徒の能動的な学習活動を推進する。

取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

英語検定や漢字検定などの各種検定試験に取り組む。

指標

- ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 50% 以上にする。
- ・漢字検定の合格率を 50% 以上にする。

【国語科】

達成状況

A

B

C

1年生に関しては目標を達成することができた。しかし3年生については大幅に目標値に届かなかった。日々の漢字小テストなどの頻度を増やし、漢字能力を高めていきたい。

次年度に向けての取り組み

入試に直結する小4～小6の漢字の書き取りは継続して行い、中学校の漢字についても漢字テストを強化して、漢字能力を養っていきたい。

【英語科】

達成状況

A

B

C

CEFR A1 レベル 50%が届かなかったが、英検を2, 3年生全員に受験させることにより、英語検定に興味を示すようになったと感じる。

次年度に向けての取り組み

CEFR A1 レベルの生徒の割合を上昇させるために検定対策等を今年度以上に行う。

C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

おおむね、目標は達成できた。特に、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合では、今年度の目標値より 10%上回る結果となった。パーテーションも購入したので、引き続き、話し合い活動を積極的に行っていきたい。3年生のチャレンジテストでは、課題がみられる。数学で現3年生の対府比が1,2年生の時と比べ、対府比で最高となったものの、国語では対府比で2年時より低くなったが、いずれも、0.81~0.82 となっている。また、昨年度より開始した3年生の英語検定受験に加えて、今年度より1年生の漢字検定・2年生の英語検定・3年生の漢字検定を受験させた。今年開始した取り組みのため、1年生の漢字検定では、生徒たちが意欲的に取り組む姿勢が見られ目標を達成できた。

次年度への改善点

引き続き、学力向上のきっかけとするため、年度当初より、検定受験に向けての取り組みを継続していく。

大阪市立築港中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

年度目標			達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】			
全市共通目標(中学校)			
①デジタル教材を活用した朝学習を週 1 回実施する。			
②ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。			
学校の年度目標			
①授業日において学習者用端末を毎日使用する。(ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日を除く。)			
②教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を、基準 1 では 50%以上、基準 2 では 75%以上にする。			
	目 標	結 果 1 2 月	達 成 状 況
教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合	50%	56. 25%	A
教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合	75%	81. 25%	A
【1 年】			
達成状況	A	B	C
朝の学活で心の天気を入力し、総合の時間では必要に応じて調べ学習に活用した。定期テストの直前には、月中行事予定のICT促進週間にしたい、朝学習としてデジタル教材を使用した授業を行った。			
次年度に向けての取り組み			
引き続き、活用できる場面を模索しながら利用していきたい。			
【2 年】			
達成状況	A	B	C
特に定期テスト前は重点的にデジタル教材を活用してきた。			
ゆとりの日に勤務時間後すぐに退勤することに努めた。			
次年度に向けての取り組み			
引き続き有効的にデジタル教材を活用していきたい。			
【3 年】			
達成状況	A	B	C
朝学習や総合の時間に、デジタル教材を活用した取り組みを進めてきた。			
また、主任が率先して退勤することで、帰りやすい雰囲気を作ることができた。			
次年度に向けての取り組み			
卒業後も、それぞれの進路先での生活を見守ってあげたい。			
来年度も率先して退勤する。			

<p>【安全衛生委員会】</p> <p>達成状況 A B C</p> <p>ゆとりの日を週１回（主として月曜日）に設定することにより、週末までの勤務に全力を注ぎやすくなった。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>引き続き、ゆとりの日を設定するとともに実施していく。</p>	
---	--

取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 各学年で読書活動を計画的に推進し、週 6 回以上図書館を開館することによって、読書習慣の育成を図る。		
<hr/> 指標 ・年度末の校内調査において、「本を読む機会が増えた」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。		
【教務部】 達成状況 <div>A<div>B</div><div>C</div></div> <p>新刊入荷時は学校図書館来館者が激増するが、普段は閑散としている。朝学活時に読書週間を設けたり、各学年でおすすめ図書の取り組みを行うなど、読書の機会が増えるような取り組みをご協力いただいているが、なかなか実を結ばないのが実情である。</p> 次年度に向けての取り組み <p>今年度の活動を踏まえながら、国語科や部活などで共同で活動したり、コラボレーションを行うなど、新しい取り組みを行っていきたい。</p>		C
取組内容④【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 大阪の歴史や文化、産業について、実際に施設や史跡、企業を訪れることで、「郷土おおさか」を愛する心を育てる。		
<hr/> 指標 ・フィールドワークや調べ学習を行い、まとめた事を発表することによって、能動的な学習態度を養う。		
【1 年】 達成状況 <div>A<div>B</div><div>C</div></div> <p>2学期に『大阪探検』を実施し、大阪市内の博物館等の施設を班ごとに巡る取り組みを行った。その際、班ごとに電車を利用した移動経路を相談させ、地図や時計、カメラなどの役割を生徒に与えることによって、班の一員としての自覚を持たせることができた。また、各施設に実際に足を運ぶことで大阪の良いところを改めて認識する良い機会となった。</p> 次年度に向けての取り組み <p>引き続き、グループワークや調べ学習などで大阪の良さを学ぶ機会を設ける。</p>		A
【2 年】 達成状況 <div>A<div>B</div><div>C</div></div> <p>2学期に『大阪探検』として、大阪メトロを使つての大阪市内の施設巡りを実施した際には、班ごとに施設のことを調べさせ、行程を計画させた。</p> <p>3月に、築港地域の史跡を巡るフィールドワークを実施する。</p> 次年度に向けての取り組み <p>引き続きフィールドワークや調べ学習で能動的な取り組みをしていく。</p>		

